

## ＜主な内容＞

項目	内容
ハザードマップを用いた大田区の想定される被害想定について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる地域及び周辺の想定される被害を知る</li> <li>・ライフライン復旧にかかる時間を知る</li> <li>・過去の地震でのライフライン復旧における実情を知る</li> </ul> など
マンション特有の被害と対策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層階になるにつれて揺れが大きくなる</li> <li>・災害時は生活雑貨が凶器に変わることがある</li> <li>・家具の固定は非常に大切である</li> <li>・生活雑貨の素材にも気をつける</li> </ul> など
安否確認情報のとりまとめと発信について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層階の被害が大きくなるので最上階から安否確認をする</li> <li>・災害時、自治体職員が区民一人ひとりの安否を確認するのは困難である。そのため、住民がそれぞれの地区長（防災リーダー）に情報を上げ、地区長（防災リーダー）が情報をまとめ行政に報告する体制を整えるべきである</li> </ul> など
高齢者、女性、子どもでもできる救助、搬送方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中マンションにいるのは高齢者、女性、子どもが多いので、その方たちを中心とした訓練を行うとともに、使いやすい資器材を用意する</li> <li>・従来の搬送方法にとらわれることなく、体力をあまり使わない搬送方法を考える</li> <li>・災害時、非常階段を使用する際は大変混雑するので事前にルールを決めておく</li> </ul> など
過去の災害時における避難所の問題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所はトラブルが多く発生する場所であり、過去の災害では避難所で窃盗や性犯罪など多くの犯罪が発生した</li> <li>・自分の家で生活することが一番であり、自分の家で生活できるように備えておくことが大切である</li> </ul> など
居住継続における問題、対策（備蓄、トイレなど）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、トイレ、入浴、洗濯など生活の全てについて避難所を頼りにすると避難所は常に大混雑する</li> <li>・災害時、避難所の仮設トイレを使用する場合は1時間～3時間くらい並ぶ可能性がある</li> <li>・自分や家族が一日何回トイレをするかを計算して簡易トイレを備えておく</li> <li>・ゴミについても事前にマンションでルールを決めておく必要がある</li> <li>・10日分くらいは備蓄しておくべき</li> <li>・冷蔵庫にあるものを含めて備蓄を考えることが大切である</li> <li>・災害時は非常食から食べるのではなく冷蔵庫にあるものなど賞味期限を考えて消費する必要がある</li> <li>・日頃から自宅で利用しているものを少し多めに備え、利用したら補充するといった「日常備蓄」を取り入れると特別な準備をする必要はない。</li> <li>・災害時、マンションではエレベーターが使用できなくなると外に出ることが少なくなる</li> <li>・段々体を動かすことが減り、体調を崩すことがあるので、できるだけ動くことが大切である</li> <li>・非常持出し袋は家族で一つでなく、一人一つが現実的である</li> <li>・区で発行している防災パンフレットなどを活用して日常から防災力をあげることが大切である</li> </ul> など